

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-1
健康づくりの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課長 山崎一幸 電話番号 0852-22-5248

事務事業の名称	80歳20本の歯推進事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	8020（80歳で20本以上の歯を残す）を達成する
事業概要	「島根県歯と口腔の健康づくり計画」に基づき、総合的な歯と口腔の健康づくり施策を推進する ①歯科保健推進協議会、圏域歯科保健連絡調整会議の開催 ②県民の奥歯総点検事業 ③多様な手法を用いた住民への知識の提供（親と子のよい歯のコンクールなど） ④事業所における歯科保健対策の拡大 ⑤高齢者、障がい者に対する歯科保健指導の実施体制の整備（高齢者の低栄養予防対策） ⑥市町村への歯科保健事業における支援（口腔機能維持管理研修など）	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	60歳（55～64歳）一人平均残存歯数	目標値	23.0	24.0	24.0	24.0	本
	式・定義	第2次島根県歯と口腔の健康づくり計画の目標（平成34年度24.4本）達成に向けた経過値	取組目標値		24.4	24.4	24.4	
			実績値	23.4	24.9			
			達成率	108.3				%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	4,282	4,384
うち一般財源(千円)	1,091	1,104

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

第2次計画に基づく60歳の一人平均残存歯数の平成34年達成目標に対し、平成28年度は24.9本であった。市町村事業の受診者（820人）の実態のため変動が大きいこと、歯の喪失原因の第1位である歯周病の中等度以上の罹患率割合は、40歳代で46.9%、50歳代で54%で増加しており、経過を見る必要がある。平成28年県民健康調査の結果から、むし歯予防のためにフッ素を利用している者の割合は41.2%、定期的に歯科医院に行き管理している者の割合は33.2%であり、平成22年調査に比べ増加していた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・県歯科医師会等の協力を得て、「第2次島根県歯と口腔の健康づくり計画」を策定した。第2次計画では、第1次計画での取組を基盤に、新たに県民目標を設定するとともにライフステージごとの取組を明確にした。
- ・歯の喪失の原因となる歯周病を効率よく発見するため、「歯周病唾液検査」の普及や実施の拡大について、経営団体や保険者と協力し、啓発を行った。
- ・親と子のよい歯のコンクールや8020よい歯のコンクールの実施では、マスコミを活用した効果的な啓発を行うことができ、また各市町村、関係団体の協力を得ることでより幅広く啓発を行うことができ、県民が歯と口腔の健康づくりを考える契機となった。
- ・県歯科医師会への委託により、高齢者の口腔機能維持の媒体である「食支援マニュアル」を作成した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・壮年期から進行した歯周病を有する割合が増加し、男性では30歳代、女性では40歳代ですでに半数以上が罹患している。また年齢が上がるにつれ、その割合が増加する。
- ・歯を多く残すことに影響のある奥歯（臼歯部）が他の歯より早期に失われる傾向にある。
- ・歯の本数の減少が咀嚼力の低下につながっている。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・歯周病についての知識が不足しており、また歯周病は自覚症状に乏しいため、放置されていることが多い。
- ・かかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔内を点検することが定着していない。
- ・噛むことや奥歯を守るなど口腔機能を維持することの重要性について理解が進んでいない。

③原因を解消するための「課題」

- ・歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の普及
- ・かかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔内を点検することの重要性についての啓発及び定着促進のための啓発
- ・歯周病唾液検査やカミング30セルフチェックシート、食支援マニュアルの活用による啓発の推進
- ・働き盛り世代の歯と口腔の健康づくりに関する知識の普及と健康づくりを支援する環境づくり

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○第2次島根県歯と口腔の健康づくり計画に基づき、関係機関との連携強化を図り、8020の達成を目指したさらなる取組を推進する。

- ・関係団体、市町村と連携し、歯と口の健康づくり週間やよい歯の日等の啓発週間を中心に歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の普及啓発を行う。
- ・イベント等でカミング30セルフチェックシートを活用し、噛むことや奥歯を守ることの重要性について啓発するとともに、かかりつけ歯科医を持つこと、定期的に口腔内を点検することについて啓発を行う。
- ・壮年期については、事業所健診での歯科健診の導入や市町村での成人歯科健診の実施、歯周病唾液検査の実施への支援を通して、歯と口腔の健康づくりを支援する環境整備を進めるとともに、保険者や職域の関係機関等との連携により効果的に情報提供できる体制整備を図る。
- ・高齢期については、地域での健康づくり事業や介護予防事業などの身近で多様な場面を活用し、食支援マニュアルの普及を図る。